

Q. 薬にも名前の由来があるのですか？

A. 人の名前に由来があるように、お薬にも名前の由来があります。
今回は「あ」から始まる医薬品の一例を紹介します。

アシノン® (ニザチジン)

アシノン®は胃酸の分泌を抑える薬です。

「胃酸」を示すacid (酸) と「これがない」という意味のnon を組み合わせて、命名されたそうです。

アーチスト® (カルベジロール)

アーチスト®は高血圧や狭心症、心不全などの治療に使われる薬です。

Artistには「芸術家」という意味のほかに、「その道の名人・達人」という意味もあります。高血圧症及び狭心症を創造的かつ個性的に治療する、という意味から命名されたそうです。

アミノレバン® (肝不全用経口栄養剤)

アミノレバン®は肝機能障害時に補給するアミノ酸です。

Amino acid (アミノ酸) とドイツ語で「肝臓」を意味するLeber を組み合わせて、命名されたそうです。

アレロック® (オロパタジン塩酸塩)

アレロック®はアレルギー症状を改善する薬です。

「アレルギー (Allergy) 症状」を「ブロック (Block)」する、に由来するそうです。

アンヒバ® (アセトアミノフェン)

アンヒバ®は子供用の解熱薬です。

「解熱」を意味するanti-fever (anti=反対、fever=熱) に由来するそうです。

お薬の名前の意味を知ることによって自分が今服用している薬についての知識が深まり、きちんと服用する手助けとなるとと思います。

執筆薬剤師 阿部 令子

わたらの健康とくすり

第197号



今月の内容

- ・健康食品を安全に利用するために
- ・アロマセラピーの注意点
- ・薬の名前の由来について

クルマバソウ (アカネ科)

地下茎で広がる多年草。ヨーロッパからアジアまで、広い範囲に分布し、日本でも本州中部以北の山地の林下に生えています。葉は通常8枚が輪生します。花は白色で小さく、誰にも注目されない草ですが、葉は乾燥すると芳香を発するので、ヨーロッパではハーブとしてよく知られ、ワインの香り付けにも使われています。衣服の防虫効果もあるそうです。

写真・文 指田 豊

2012年6月発行

発行者 八王子薬剤センター 茂木 徹

東京都八王子市館町 1097 電話 042-666-0931

協力 八王子薬剤師会

健康食品を安全に利用するために

「健康食品」と一言と言っても、市販されている製品にはとても多くの種類があり、どれをどのように使えばいいのかわかる方も多くはないのでしょうか。

東京都では、「健康食品」を安全に利用するために必要な心構えの12ヶ条を紹介しています。

「健康食品」を正しく理解しましょう

1. 「健康食品」は、素材の種類や食べ方（加工）が一般の食品と異なることがあります。そのため、**安全性については一般の食品よりも慎重に**考えるようにしましょう。
2. 「健康食品」は、あくまで**食生活における補助的なもの**と考えましょう。
3. 「健康食品」は、**病気や体の不調を治すものではない**ことを意識しましょう。

「健康食品」のご利用前にご確認ください

4. 「健康食品」を利用する前に、普段の食生活で、本当に**補給する必要がある栄養成分**があるか、考えてみてください。
5. 健康に役立つ食品機能を紹介する健康情報は、**そのまま受け入れるのではなく、科学的な視点に基づく判断を行ったうえで参考**にしてください。
6. 製品を選ぶ際には、**表示や広告をよく確認**してください。
7. **個人輸入やインターネットオークション**を利用する際には、**製品に関する情報の確認**をしてください。
8. **保健機能食品制度について理解を深める**ことは、「健康食品」を利用するうえで重要なことです。
9. 特定の成分を**過剰に摂取しないよう**に気をつけてください。
10. 「健康食品」の**利用期間や量などについて記録**をとってください。

医療機関への相談

11. 体調不良を感じたら、すぐに**利用をやめて医療機関を受診**してください。
12. 治療を受けている人が「健康食品」を利用する場合には、**医師や薬剤師などに相談**してください。

詳しくは、東京都福祉保健局のホームページ「**健康食品ナビ 安全に使用するためのポイント**」で紹介されていますので、そちらをご参照ください。

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/anzen/supply/riyou.html>

執筆薬剤師 岡田 寛征

ちょっとお耳を……

アロマセラピーの注意点

アロマセラピーをご存知ですか？

アロマセラピーとは、**アロマ（芳香）とセラピー（治療）を合わせたフランス語の造語**で、植物の香りの元を凝縮した精油（エッセンシャルオイル）の力を借りて**心や身体の回復に役立てていこうとする自然療法**です。また、英語で発音して、アロマセラピーと呼ばれることもあります。

今回は**アロマセラピーの注意点**をご紹介します。

精油には様々な作用があり、健康管理に活用することができますが、誤った使い方をすると悪影響を及ぼしてしまうこともあります。

・妊娠中の使用が望ましくない精油の例

ラベンダー、ゼラニウム、カモミール、ジャスミン、ローズマリー、ペパーミント、レモングラス、レモンバーム、ジュニパー、イランイラン

精油は妊娠時の吐き気、背痛、むくみなどの症状の改善に役立つことも大いにあります。しかし精油の中には、女性ホルモンのバランスに影響するものもありますので、時期によっては注意が必要です。

・光毒性のある精油の例

ベルガモット、レモン、グレープフルーツ

これら柑橘系の精油に含まれている成分が、紫外線に反応して、肌荒れやシミなどの症状が生じることがあります。外出前や外出時、日光にあたる部分への使用は避けるようにしましょう。

・肌への刺激

精油は濃縮された成分のため、一般的には薄めて使います。**原液のまま使用すると肌への刺激やかゆみを起こす**場合がありますので、注意してください。また、初めて使う場合にはパッチテスト※をするようにしましょう。

※パッチテスト：精油でアレルギー反応が起こるかを試す簡単なテストのこと。詳しくは精油に添付の説明書等でご確認ください。

第29号では**代表的な精油**について、第56号では**香りの効能**としてハーブティについて、第121号では**簡単な楽しみ方**を中心にご紹介していますので、参考にしてください。

ご紹介した注意点を守り、素敵な香りで心と身体をリラックスさせてみてはいかがでしょうか。

執筆薬剤師 朝永 枝里子